

道博協 ニュース

第56号

発行所 北海道博物館協会
札幌市厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

第35回道博協厚岸大会

盛会裡に終了

平成八年度の第三十五回北海道博物館協会総会ならびに大会は、江戸時代後期から道東の要地として栄えた厚岸町の社会福祉センターを会場に全道から一五〇名の参加者を迎えて七月四、五の両日、盛大に開催されました。

(栃木県立博物館長)と道教委南原一晴教育長代理の釧路教育局小野寺彦局長からいただきました。

大会テーマは、「地域の自然と文化財を生かした博物館活動」で、テーマに添った発表や報告が数多くなされました。

総会は十時から、厚岸町教委の板橋正樹生涯学習推進室長、名寄市北国博物館島影陸館長が議長となり、一号議案から八号議案まで能率的に審議されました。特に三号議案は、一年間かけて検討された「道博協基本問題検討委員会報告」が佐藤一夫副会長から報告され、改革案を取込んだ

九時三〇分、厚岸町教育委員会の大野繁嗣社会教育課長の司会により開会式が挙行されました。長谷川吉廣副会長の開会宣言に続き、城戸崎彰会長の主催者挨拶があり、続いて澤田昭夫町長の町内の自然と文化財紹介を兼ねた歓迎の辞をいただきました。

報告され、改革案を取込んだ平成八年度の事業計画案が四号議案として審議可決されました。次回開催地は名寄市で、明年七月上旬に開催されることに決り、島影館長から歓迎の挨拶がありました。最後に七号議案として「大会決議文」が決議されました。役員会を代表して城戸崎会長から趣旨説明があり、前述の「道博協基本問題検討会」の討議をふまえて、以下の内容(決議文は二頁参照)を道及び関係機関に

また舟山正弘議長からは、町の地勢、産業などを踏まえた挨拶をいただきました。

報告され、改革案を取込んだ平成八年度の事業計画案が四号議案として審議可決されました。次回開催地は名寄市で、明年七月上旬に開催されることに決り、島影館長から歓迎の挨拶がありました。最後に七号議案として「大会決議文」が決議されました。役員会を代表して城戸崎会長から趣旨説明があり、前述の「道博協基本問題検討会」の討議をふまえて、以下の内容(決議文は二頁参照)を道及び関係機関に

祝辞は日博協佐野文一郎会長に代って池嶋和雄副会長

要望するといふものです。次いで特別報告「日本における博物館の現状と課題」が日本博物館協会池嶋和雄副会長から、最近の博物館界の情勢、特に日本博物館協会首脳部の人事刷新が六月末に行われ、今後、新体制のもとに平成八年度事業が開始されたことなどの報告がありました。

また舟山正弘議長からは、町の地勢、産業などを踏まえた挨拶をいただきました。

午後五時の講演会の講師は、釧路市史編纂委員会事務局長で、地元厚岸町の出身でもある佐藤有紹氏で、演題は「蝦夷地厚岸と国泰寺」でした。内容は、蝦夷三官寺のひとつである国泰寺が厚岸に建立された意義、国泰寺を中心とした江戸時代の厚岸の役割など、説得力のあるものでした。

祝辞は日博協佐野文一郎会長に代って池嶋和雄副会長

シンポジウムは、「地城の自然と文化財を生かした博物館活動」というテーマを掲げ、夕張市石炭博物館の青木隆夫

館長の司会のもとに、新庄久志(釧路市立博物館)、川上淳(根室市博物館準備室)、稻田光明(標津町ポー川史跡自然公園)、渋谷辰生(厚岸水鳥観察館)の報告をもとに聴衆をまじえた討論というかたちで進められました。詳細は、後日刊行の「大会報告書」を参照して下さい。

寸刻みに詰まった日程からようやく解放された六時から町営レストラン「コンキリエ」での懇親会は、山海の珍味にあふれ、一日の疲れがいつべんに飛んでしまうほどの豪華なものでした。例年のことながらなごやかな交流に時のたつのも忘れるほどでした。

平成八年度の表彰は、故石川政治氏(元市立函館博物館長)、故澤四郎氏(元釧路市立博物館長)、今村康雄氏(端野町立歴史民俗資料館協議会委員長)、大沼幸雄氏(元厚岸町教育委員会社会教育課公民館長兼郷土館長)の四氏でした。

翌五日の博物館・史跡見学は、九時からバス二台に分乗して①厚岸町海事記念館 ②郷土館 ③国泰寺 ④正行寺 ⑤太田屯田記念館 ⑥水鳥観察館と廻り、いずれも各施設の町教委職員の方の親切な解説がありました。

午後の講演会の講師は、釧路市史編纂委員会事務局長で、地元厚岸町の出身でもある佐藤有紹氏で、演題は「蝦夷地厚岸と国泰寺」でした。内容は、蝦夷三官寺のひとつである国泰寺が厚岸に建立された意義、国泰寺を中心とした江戸時代の厚岸の役割など、説得力のあるものでした。

最後に、この大会をお世話いただいた地元厚岸町の皆様から感謝申し上げ、報告を終えます。

シンポジウムは、「地城の自然と文化財を生かした博物館活動」というテーマを掲げ、夕張市石炭博物館の青木隆夫

(北海道博物館協合理事

祝辞は日博協佐野文一郎会長に代って池嶋和雄副会長

野村 崇)

祝辞は日博協佐野文一郎会長に代って池嶋和雄副会長

野村 崇)

祝辞は日博協佐野文一郎会長に代って池嶋和雄副会長

野村 崇)

第35回北海道博物館大会決議

第三十五回北海道博物館大会において、次のことが決議され、七月二十九日、北海道知事、北海道教育委員会教育長、北海道市長会長、北海道町村会長に対して要望しました。

- 一、北海道の新長期計画の中に博物館整備計画を位置づけ、総合的な振興施策を推進されたい。
- 二、北海道では、中核的機能を持った自然史博物館、考古博物館、産業技術史博物館などの専門博物館が無いので、それらを道立で設置されたい。
- 三、博物館・園の専門職員である学芸職員の充足と処遇の改善をはかられたい。
- 四、全道博物館活動の中心である北海道博物館協会に対し、大幅な財政援助をされたい。

平成八年七月四日

第35回北海道博物館協会 厚岸大会に参加して

七月四日・五日、厚岸町で北海道博物館大会が開催されました。

私の勤める千歳サケのまちと館は平成六年九月にオープンし、北海道博物館協会に加入したのが昨年でした。ですから今回が初参加となり、はたしてどのような大会なのかという不安と期待を持ちながら、そして初めて行く厚岸を楽しみにしながら千歳を出発したのでした。JRで石勝線を越え、景色がどことなく違ってきます。大きなフキ、遅いライラックの花、ヒオウギアヤメ、湿原、キタキツネ、エゾシカ。長い汽車の旅も面白いです。そうこうしているうちに、厚岸に到着しました。

四日午前中は、総会と特別報告が行われ、総会の中では、第三十五回北海道博物館大会決議(案)が出されました。決議案がどのような過程で出されたかよく分からなかったのですが、特別報告の中でも言われていたように現在博物館が変わりつつある中、このような要望を出すことは良いと思うし、今後の行方が非常に気になりました。午後からは、特別講演が行われました。厚岸と言えば、私はカキを思い浮かべる程度で、歴史については知識が全くなかったのですが、厚岸が変わった地形、湖南・湖北の話は興味深いものでした。そして江戸時代の北海道で、道東の厚岸に幕府に関する国泰寺というお寺があることに驚きました。翌日の施設見学の事前知識として、大変勉強になりました。

シンポジウムは「地域の自然と文化財を生かした博物館活動」というテーマで、各施設、博物館の四名から報告がありました。それぞれのお話を聞いて、博物館は地域との関わりが切り離せないということをしみじみ実感しました。地域の人たちの交流は館の活性、発展につながると思いますし、新しい発見も見つかります。どの報告も、少なからず自分の職場に関する事柄があり、それをいかに吸収して活用できるか考えながら話を伺っていました。他施設の事例は、まだまだ経験の浅い私にとつて、大変参考になります。ただ、時間の都合でアイスカッションが短く、それが少し残念でした。

報告の中で、釧路市立博物館の新庄久志氏の「自然観察会でのJRなどの公共機関を利用する」という話がありました。ちよと今度行う学習会の移動方法で、身近な公共機関のことは頭になく、どうしようかと悩んでいたのが、良いヒントを得て一人でニタニタとしておりました。大会閉会式のあとに、「コンキリエ」で行われた懇親会は、「やっぱり厚岸と言えは・・・」と思わせるほどたくさん大きなカキや魚介類があり、大変おいしくいただきました。また、色々な方との交流を通し、楽しい時間を過ごしました。

翌日は施設見学で、駆け足で六施設を巡り、厚岸町の歴史、自然、文化に触れることができました。この大会は毎年違う土地で行うようですが、それによって開催地の文化等を知る利点があると思います。私は自然科学系に興味があるので、厚岸水鳥観察館とその最新設備は特に印象に残りました。ただ、施設見学も時間があまりなく、また私が全部見終わらないうちに次へ移動するので、欲を言えばもっとゆつくりと見学したかったです。

私は普段あまり博物館関係の方と交流がないのですが、今大会で他施設の事例、そして色々な方のお話を伺うことができ、とても有意義なものとなりました。今後も多くの知識や情報の交流ができればと思います。

最後になりましたが、大会事務局としてあたたかく歓迎して下さいました厚岸町の皆様から心からお礼申し上げます。

(千歳サケのふるさと館 飼育技師・学芸員 荒金 利佳)

事務局交代のお知らせ

8月31日付けで事務局が交代しました。新事務局は次のとおりです。

- 事務局長 三野紀雄 (北海道開拓記念館企画部)
- 事務局員 山田悟郎 (同学芸部)、林昇太郎 (同事業部)、由水正明 (同企画部)、平川善祥 (同企画部)、笹木義友 (同企画部)

平成八年度 学芸職員研修会に参加して

●基調講演

「道教育庁生涯学習担当者の講演が設定された今回の研修会は、博物館の拘える問題の改善を具体的に前進させるための、第一歩であった。」という役員の方の話を聞いて、今研修会の準備をされた方々の意気込みが感じられた。講演テーマは「生涯学習社会における博物館と学芸員」であったが、博物館問題はどの一面を取り上げても、結局その背景にある本質的問題が露呈するので、議論を尽くす絶好の機会であった。

しかし、予定されていた討論は実現せず、議論は先送りになってしまった。講演内容から考えると、残念ながら道教育庁と現場との認識のズレは苦しい。安易に「生涯学習

社会の推進」を掲げ、実務を博物館に押し付けられても困る。特に地方の小規模館には、

いくら「生涯学習」の掛け声を投げかけられても、それに対応する余裕など無いのが実状だ。そもそも多くの博物館において、普及・教育の中核を成す常設展示でさえ、ほとんど更新・拡充されることのない状況なのである。

こういった現状は、教育行政と博物館界との認識のズレだけではなく、博物館の利用者一般と博物館界との認識のズレをも生み出しているように思える。今必要なのは、行政や一般利用者が博物館界の実態を正しく認識し、将来実社会の中でこれをどのように位置づけ活用していくのか、また、それにはどのような投資が必要か、明確なビジョンを待つことだと思ふ。

●事例報告

先に、教育行政や一般利用者

もその後の事例報告によって、博物館（学芸員）間にも認識に若干の差があることが窺い知れた。博物館が元来自由度の高い施設であるためなのか、その設置の背景や活動のスタンスなどにはかなり幅がある。発表者の報告では博物館の生涯学習指導として、おむね特別展示や普及講演会、観察会などの事業が挙げられた。随分と多くの事業をこなしておられる、と感心した。発表者



者の言われるとおり、相当な負担だろうと想像される。三つの事例報告は、多くの博物館の現状を示していると

たがって同時に、博物館ネットワークの実現が必要不可欠であろう。

●穂別では

穂別町立博物館では諸般の事情で、普及・教育のための特別プログラムを組めないでいる。そこで、要望があり次第対応」というかたちですすめていく。先日、小学校からの依頼で地層見学会を行ったが、日頃の調査・研究活動が問われ、また生かされることを実感した。

生涯学習において、穂別町立博物館が十分対応できるのは、地質・古生物分野である。人手不足は恒常的なものだ。しかし、利用者がそのことを理解し、より主体的に博物館を活用するならば、我々もそれに対して十分な支援を行って

いけると思っている。最後にになりましたが、小樽交通記念館の皆様をはじめ、研修会の準備に当たられた方々に、心からお礼を申し上げます。

（穂別町立博物館 学芸員

川上 源太郎）

平成八年度 学芸職員研修会に参加して

●基調講演

「道教育庁生涯学習担当者の講演が設定された今回の研修会は、博物館の拘える問題の改善を具体的に前進させるための、第一歩であった。」という役員の方の話を聞いて、今研修会の準備をされた方々の意気込みが感じられた。講演テーマは「生涯学習社会における博物館と学芸員」であったが、博物館問題はどの一面を取り上げても、結局その背景にある本質的問題が露呈するので、議論を尽くす絶好の機会であった。

しかし、予定されていた討論は実現せず、議論は先送りになってしまった。講演内容から考えると、残念ながら道教育庁と現場との認識のズレは苦しい。安易に「生涯学習

社会の推進」を掲げ、実務を博物館に押し付けられても困る。特に地方の小規模館には、

いくら「生涯学習」の掛け声を投げかけられても、それに対応する余裕など無いのが実状だ。そもそも多くの博物館において、普及・教育の中核を成す常設展示でさえ、ほとんど更新・拡充されることがない状況なのである。

こういった現状は、教育行政と博物館界との認識のズレだけではなく、博物館の利用者一般と博物館界との認識のズレをも生み出しているように思える。今必要なのは、行政や一般利用者が博物館界の実態を正しく認識し、将来実社会の中でこれをどのように位置づけ活用していくのか、また、それにはどのような投資が必要か、明確なビジョンを待つことだと思ふ。

●事例報告

先に、教育行政や一般利用者

もその後の事例報告によって、博物館（学芸員）間にも認識に若干の差があることが窺い知れた。博物館が元来自由度の高い施設であるためなのか、その設置の背景や活動のスタンスなどにはかなり幅がある。発表者の報告では博物館の生涯学習指導として、おむね特別展示や普及講演会、観察会などの事業が挙げられた。随分と多くの事業をこなしておられる、と感心した。発表者



者の言われるとおり、相当な負担だろうと想像される。三つの事例報告は、多くの博物館の現状を示していると

たがって同時に、博物館ネットワークの実現が必要不可欠であろう。

●穂別では

穂別町立博物館では諸般の事情で、普及・教育のための特別プログラムを組めないでいる。そこで、要望があり次第対応」というかたちですすめていく。先日、小学校からの依頼で地層見学会を行ったが、日頃の調査・研究活動が問われ、また生かされることを実感した。

生涯学習において、穂別町立博物館が十分対応できるのは、地質・古生物分野である。人手不足は恒常的なものだ。しかし、利用者がそのことを理解し、より主体的に博物館を活用するならば、我々もそれに対して十分な支援を行って

いけると思っている。最後にになりましたが、小樽交通記念館の皆様をはじめ、研修会の準備に当たられた方々に、心からお礼を申し上げます。

（穂別町立博物館 学芸員 川上 源太郎）

士別市立博物館は、昭和五十六年にオープンして以来、常設展示の大規模な展示替えを実施していません。しかし、小規模となると時々思い出し、たよりに行っています。そこで今回は、天塩川流域の町々というコーナーにあった流域市町村の特産物の展示を天塩川に生息する魚類剥製に替え、たよりのことについて紹介します。

当初、このコーナーは士別市ばかりでなく古来よりその流域に住む人々に多くの恵みを与えてきた母なる川・天塩川を紹介しようという意図で生息する動物、樹木や考古学資料などのほか各市町村の特産物を展示していました。しかし、特産物に観光土産のよなものしかなく、これはというものは展示できませんでした。このままでは見栄えがしないので展示替えをしようと思いつつ日々多忙で雑多な仕事に埋没しているうちにその思いは忘れてしまっていました。ところが、平成四年に財団法人河川環境管理財団の

河川整備基金助成というのがあるを知り、「天塩川の淡水魚コーナー」設置事業というのを企画して思い切つて応募したところ、一五〇万円が助成されたのでした。

それでさっそく天塩川に生息する魚類について調査をはじめたのですが、各種図鑑や調査報告を見て、まず地方によつて名称が違うのに驚き、地域によつて変種があるのに

名称を使おうということになりました。

それから「アングラーズ」の力で剥製にする魚類を採捕しようとして北海道知事の許可を得た。天塩川の支流剣淵川で引き網を使って実施しました。いよいよ網を仕掛け上流から追いつたのでした。橋の上の傍観者からは、「大きな鯉が、いっばいいるぞ」と喚声が上がったのですが、網の仕掛

自然史系学芸員の現場から⑩

常設展示の展示替え

士別市立博物館 学芸員 水田 一彦

二度びつくり。はたして天塩川に生息する魚類は、名前が統一されているのだろうか心配になり淡水魚保護団体「アングラーズ」のメンバーにアンケートをお願いしました。その結果にまたまた驚いてしまいました。聞き取りした人の年齢や出身地によって呼名がぜんぜん違うのです。この問題は、当館の性格上なるべく市民に一番親しまれている

け方がまずくフナとウグイが数匹掛かっただけでした。後で聞いてみると引き網の掛けた方をだれも知らなかったのです。たいへん苦勞したのに一同がっかりの採捕でした。そこで今度はメンバーが個人的に釣ったものを持ち寄ろうということになりました。その結果、競争心をあおったようですばらしいものが集まりました。サケ類は、許可があるの

で個人での採捕をやめ、美深町と中川町にある水産庁北海道さけ・ますふ化場にお願いで調達しました。

剥製は、地元の業者松本さんにお願ひしました。松本さんは、「干涸びたような標本じゃなく生きている状態になるべく近いようにしなければだめだ」ということのでたいへん苦勞して剥製を仕上げてもらいました。

このようにして、剥製にした魚類は、ヤマベ、オシヨロコマ、アメマス、サケ、サクラマス、カラフトマス、ニジマス、ウグイ、エソウグイ、マルタウグイ、ヤチウグイ、コイ、ドイツゴイ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、ドジョウ、フクドジョウ、ナマス、イバラトミヨ、ハナカジカ、マガレイ、スナガレイ、カワヤツメ、カムルチーの二四種・二八尾となりました。

このコーナーを設置後、道内より研究者や興味をもった来館者がちよくちよくみえられるようになり、この剥製についてご指導やご意見をいた

だき、たいへん役立っています。

天塩川が豊かな自然の残っている川として証明できるようこれら魚類がいつまでも生息することを願わずにはられません。



新館・園の紹介

上湧別町ふるさと館JRY

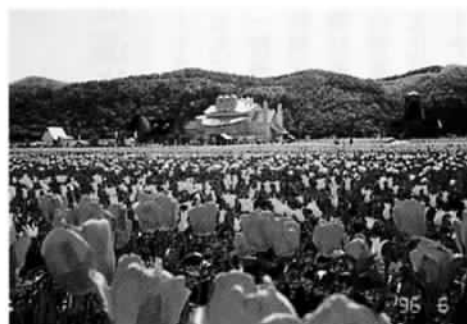
湧別海岸まで一直線の道路、遠軽から北進して一五分ばかりすると、右手山麓にあればなんだと思わせるコンクリートの建物が見えてくる。

恐竜のように、巨大かつむりのように、見る人の想像力でどのようにも見えて、誰もが何かに見立ててしまうこの建物は、平成八年八月一日に誕生したばかりの博物館なのである。

五月には目の前にチューリップ公園が広がる田園の中。名前が「上湧別町ふるさと館JRY」。JRYはジェリーと読ませる。

上湧別町には既に、図書館やホール、漫画美術館などが内包される文化センターがあつて、その受称がなぜかTOM。そこで町民から新しい施設の名称を公募したところ、ジェリーが登場した次第。

入り口を入ると正面に、林立するコンクリートの柱に囲まれ



二階に上がると「屯田兵物語」が展開する。

北海道になぜ屯田兵が置かれたのか。屯田兵の仕組み。家族の役割と暮らし。解散後の屯田兵。など、湧別屯田のあらましが見られる。

見所は、精巧につくられたミニチュアのジオラマである。

人間の大きさが五、六種の縮尺なので、実大の人形の持つ不気味さがない。

しかも、ところどころに仕掛けがあつて楽しめる。

見ただけで状況がわかる表現力をもつジオラマである。

少し物足りないという苦情が出ているほど、空間がゆつたりしているのも特徴だろう。

意外に屯田兵関係の実物資料が少なかつたことが幸いして、エッセンスだけの、すっきりした展示になつているから、導入のための展示としては新機軸を開いたものになつた。

なだらかな曲面を見せる、鉄紺の展示壁面と、上部の木の梁が描く曲線とが、落ち着いた美しさを醸し出しているので、人々に不思議な安息を与える空間

になった。

資料の中で珍しいものがある。色褪せた一旗の旗である。「名誉旗」と呼ばれるこの旗は、明治三五年、上湧別の小学生代表が途中サロマ湖畔で一泊し網走まで歩いて受け取りに行った。

この年北海道庁は地域の教育を振興させるため、就学率や学業の優秀な小学校を選んで表彰しました。

彼等は最初の十一校の中に選ばれ、旗と副賞の柱時計を受け取つた。

当時の教育状況や、屯田兵の子弟教育の考えを伺うことができる。

現存する「名誉旗」が他に残っていないければ、上湧別だけの貴重な資料になる。

この旗は小学校に大切に保管された。

館の後部を巡る回廊の壁面に飾られた、三二枚の屯田兵肖像画も圧巻である。

一万円札の聖徳太子を描いた馬堀法眼画伯の手になるものだ。

小規模だが、上湧別町のあゆみでは、先史時代から現代ま

での上湧別の歴史が見られ、収蔵展示では、農機具や生活資料が展示されている。最後は、二〇〇型スクリーンで、3D映像「苦根楽果」で締め括る。

JRYは、上湧別町から町外に向けてのメッセージだが、メッセージの発信者としては町民自身であるから、さまざまな形で町民参加型の博物館をめざしている。

館長 中村 齋

★利用案内
 へ利用案内
 ★開館時間
 午前10時～午後5時30分
 ★休館日
 月曜日、祝日の翌日、年末年始
 ★観覧料
 大人400円(310円)
 高校生250円(200円)
 小中200円(160円)
 ()は10人以上の団体
 ★公共交通
 JR遠軽駅下車バスで三分。一五号線バス停下車。
 ★問い合わせ
 電話 0566-113000

新館・園紹介

増毛町総合交流促進施設・元陣屋

青空に一際映える白い外壁。ト造り二階建に延面積は一、七九三平方メートルとなり、一階部分には図書資料室・史料展示室・映像体験室、映像機材室、二階部分は郷土文化伝習室(多目的ホール)・婦人文化室、ギャラリー・談話コーナーからなり、生涯学習センター的な機能を兼ね備えた設計となっております。また、入口からロビーも広く、円型カウンターでの受付も入りやすさを基本に工夫がされております。

当施設は、農林水産省の補助事業で実施したもので、総事業費八億七千三百万円となり財源的には、補助対象経費の五〇パーセントが国の補助金、残り金額が起債で賄われさらに起債の八〇パーセントが交付税で補われています。施設の規模は、鉄筋コンクリ



間に、増毛町の開基である宝暦年間から明治四年の廃藩置県に至る、松前・津軽・秋田・山口の各藩等の「侍文化と増毛」をテーマに、古文書等の各種資料の展示、増毛町の開基以来の基幹産業である漁業・農業に係る資料を収蔵展示方式でレイアウトしてあります。この史料展示室は、来館者が「触れて、見れる」参加のできる展示構成となっております。鑑賞の試着コーナーや史料展示室中央に再現された侍大将の居室には、人体模型に組み込まれたマスキビジョン、更に映像による古文書解説コーナー等に一味ちがった楽しめる展示室となっております。

この部屋は、二期面マルチ映像・立体映像・ハイビジョン映像と、増毛町の歴史と現在の姿を映像により体験できる施設です。特に、立体映像はシャッター方式によるリアルな映像が好評です。

郷土文化伝習室

各種会議・講演会・展示会等フロアをいっばいに使った多目的に使用できる部屋です。会議形式で一〇〇名、講演会形式で、一五〇名が収容可能です。

婦人文化室

この部屋は、中期模の会議・研修会等が可能な施設で、約五〇名程度の会議ができます。ギャラリー・談話コーナーこのスペースは、地域の方々の発表・展示の場となります。各種団体・サークル活動等の成果を広く町民に見ていただくよう工夫がされております。天井レールと連結されたパネルは、縦横自由自在に動かし、展示物の内容に合せたレイアウトができるよう設計がされております。

交流の場として充実していきたいと考えております。館長以下、学芸員・司書の専門性に期待するところが大切です。是非一度のご来館を！

社会教育課長 佐藤 順治

〈利用案内〉

☆開館時間 午前一〇時から午後六時まで

☆休館日 毎週月曜日(但し月曜日が祝祭日の場合は翌日) 年末年始(十二月二日から一月三日まで)

☆観覧料(史料展示室のみ) 小中学生二〇〇円(一〇〇円) 高校生三〇〇円(二〇〇円) 一般・大学生四〇〇円(三〇〇円)、就学前の幼児は無料 () 内は団体(一〇名以上)

☆交通 JR留萌線増毛駅下車徒歩五分

☆問い合わせ先 増毛町総合交流促進施設・元陣屋

増毛町大字永寿町四丁目四九番地

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

TEL 〇一六四一五三三三

FAX 〇一六四一五三三三

北海道博物館協会

ミュージアム・マネージメント研修会の開催

次により第一回「ミュージアム・マネージメント研修会」を開催いたします。時節柄御多忙とは思いますが、多数の皆様のご参加を期待いたします。

趣 旨

今、我が国は文化の時代また物質的な豊かさから精神的な豊かさを求める時代へと変化してきています。人々の求める精神的な豊かさも多様であり、また個性ある手段で欲求を満たしたいと願っています。このような文化の質が変わり、また自らの欲求によって学習する時代の中で、文化そして生涯学習の中核的な施設である博物館は、人々の生活文化の創造・発展に積極的にかかわって行く必要があります。このためにも自らを革新しなければなりません。このような時代背景のもとでの博物館経営には心理学、教育学、法律、市場原理等々

二日目(会場 大雪クリスタルホール 第二・三会議室)
 事例報告・質疑応答
 九時三〇分～一時三〇分
 閉会 一時三〇分
 施設見学 自由見学
 会場 旭川市大雪クリスタルホール(旭川市神楽三条七丁目)
 対象 博物館等施設の長および事務長職、事務職員、学芸員
 内容 講演一「北海道の博物館の現状と課題」講師北海道教育委員会生涯学習部社会教育課長 小山忠弘氏
 講演二「ミュージアム・マネージメントの考え方」講師 国立科学博物館教育部長 大堀 哲氏
 事例報告一「北網圏北見文化センターの現状と課題」発表者 北網圏北見文化センター館長 久保 勝範氏
 事例報告二「斜里町立知床博物館の現状と課題」発表者 斜里町立知床博物館長 中川 元氏
 事例報告三「プロビデンス号室蘭来航二〇〇年祭と博物館」発表者 室蘭市民俗資料館館長 久末 進一氏
 司会・進行 苫小牧博物館館長 佐藤 一夫氏
 参加申込
 ・参加料 無料
 ・申込方法 申込用紙の郵送による
 ・申込先 〇〇四 札幌市厚別区厚別町小野幌五三二二北海道開拓記念館気付 北海道博物館協会事務局
 ・申込期日 平成八年十一月一日～二日締め切り
 ・照会先 上記事務局 TEL 〇一一八八八〇四五六 FAX 〇一一八八八二二六五七

館・園のおもな事業
 一〇月末～一二月
 へ特別展・企画展
 ●北海道立帯広美術館
 「富士美術館名品展」10・8・11・17、「北海道・今日の美術」12・7・1・12
 ●北海道立近代美術館
 「北海道・今日の美術」10・26・12・1、「A★MUSE★LAND'97」12・7・1・26
 ●北海道立旭川美術館
 「木の造形・旭川大賞展」10・26・1・12
 ●苫小牧科学センター
 「遠くを見つめるもう一つの目」10・26・11・17
 ●苫前町郷土博物館
 「いま甦る造材現場」5・1・11・10
 ●旭川市青少年科学館
 「科学の夢 図画コンクール展」11・2・11・10、「模型工作コンクール展」11・2・11・10

このように文化の質が変わり、また自らの欲求によって学習する時代の中で、文化そして生涯学習の中核的な施設である博物館は、人々の生活文化の創造・発展に積極的にかかわって行く必要があります。このためにも自らを革新しなければなりません。このような時代背景のもとでの博物館経営には心理学、教育学、法律、市場原理等々

一日目(会場 大雪クリスタルホール レセプションホール)
 受付 一二時三〇分～一三時
 開会 一三時
 講演一 一三時一五分～一四時四五分
 一休 憩一
 講演二 一五時～一六時三〇分

●北海道立三岸好太郎美術館
 「北の夭折画家たち―大正・昭和初期の青春」10・5・11・24、「三岸好太郎の世界ロマン

- と叙情の画家」11・30～3・30
 ●北海道立文学館
 「久保菜と北海道」10・1
 11・10
 ●札幌市円山動物園
 「富山市との動物画交換展」
 10・19～11・21、「手作り年賀状
 コンクール展」12・20～1・1
 ●木田金次郎美術館
 「吹雪の描線」10・9～3・30
 ●黒松内町ブナセンター
 「黒松内の化石」12月～1月
 ●榎法華村灯台ファミリアー館
 「小学生絵画展」11・1
 11・30、「日本の灯台写真展」
 12・1～12・28
 ●北海道開拓記念館
 「中国黒竜江省の恐竜化石
 と歴代文物展」10・22～12・8
 ●札幌市豊平川さけ科学館
 「シロサケの産卵行動展」
 10・1～11・30
 ●栗山町開拓記念館
 「栗山開拓物語」9・28
 11・5
 ●美幌市郷土資料館
 写真展「日本アルプスの
 自然」11・1～11・20
 ●厚岸町郷土館
 「郷土館移動特別展」11・
 1～11・3
 ●当別伊達記念館
 「殿様の石狩川遊記」8
 月～11月
 ●普及行事
 ●函館市北方民族資料館
 ミュージアムトーク「北方
 民族と楽器」11・30
 ●北海道開拓記念館
 講演会「中国東北地方の歴
 史と文化」11・3、「しめなわ
 をつくる」12・4～12・18
 ●標津サーモン科学館
 「シロサケ産卵行動観察会」
 及び「シロサケ採卵実習」9
 月～11月
 ●帯広百年記念館
 講座「レコードの音の文化
 史Ⅲ」11・16、「版画講座」11・
 17、講座「世界のアイヌ民具」
 12・21
 ●苫小牧市科学センター
 冬のプラネタリウム夜間公
 開」11・30
 ●岩見沢郷土科学館
 「ふるさと年賀状づくり」
 11・17、「熱気球づくり」11月
 ●根室市博物館開設準備室
 「根室歴史講座(四回)」11月
 ●旭川市青少年科学館
 講座「月を写そう」11・24、
 「プラネタリウム・コンサ
 ー」12・22
 ●北海道立帯広美術館
 「美術講演会」12月中旬
 ●北海道立文学館
 「文芸セミナー」11月中旬
 ●札幌市青少年科学館
 「みんなの楽しい実習広場」
 11・3、「天文台夜間公開」11・
 6～11・10、12・18～12・22
 ●榎法華村灯台ファミリアー博
 物館
 「灯台まつり」11・4
 ●苫小牧市博物館
 講座「アイヌの世界」11・
 18、講座「三内丸山遺跡」12・
 7、「工作教室Ⅰ、Ⅱ」11・9、
 12・14、「懐かしの音楽会」10・
 22、11・7、11・12、11・13、11・
 18、「しめ縄づくり」12・8
 第35回大会補助金の交付申
 請
 6・13 (財)北海道生涯学習
 協会へ負担金納付
 6・14～15 第35回大会開催
 打合せのため、事務局長・
 事務局次長、厚岸町へ派遣
 6・18 名寄市教育委員会よ
 り 同市での第36回大会開
 催の内諾を得る
 6・18 (財)北海道青少年育
 成協会へ負担金を納付、北
 海道動物園水族館協会北海
 道ブロックへ研修費を交付
 6・18 北海道教育委員会よ
 り第35回大会補助金が交付
 6・21 第36回大会開催打合
 せのため、事務局長・事務
 局次長、名寄市へ派遣
 6・26 道博協基本問題検討
 委員会報告書、及びニュー
 ス55号を会員へ送付
 7・3～5日 第35回北海道
 博物館大会開催、於厚岸町
 7・24 厚岸町長、教育長等
 へ第35回北海道博物館大会
 に対する礼状の発送
 7・29 第35回北海道博物館
 大会の大会決議文を北海道
 知事、北海道教育長、北海
 道市長会長、北海道町村会
 長へ提出、会長・事務局長
 が特参
 8・16 北海道教育委員会へ
 第35回大会に関する補助事
 業等実績報告書を提出
 8・16 道東3館内博物館施
 設等協議会へ交付金送付
 9・10 第11回北方民族文化
 シンポジウム(主催道立
 北方民族北海道開拓記念
 館)係わる名儀後援
 9・12～13 平成8年度北海
 道博物館協会学芸職員部会
 研修会開催、於小樽交通記
 念館
 9・19 平成8年度アイヌ民俗
 文化財専門職員等研修会に
 係わる名儀後援、北海道開
 拓記念館主催特別展「中国
 黒竜江省の恐竜化石と歴代
 文物展」に係わる名儀協力
 9・20 協会特別顧問4氏へ
 第35回北海道博物館大会資
 料、及び大会決議文を送付
 9・25 道教委社会教育課、
 小樽市教育委員会、小樽交
 通記念館等へ学芸職員部会
 研修会終了にともなう礼状
 の発送

事務局日誌

(平成8年6月1日～9月30日)

6・11 道東3管内博物館施
 設等連絡協議会の平成8年
 度総会開催
 6・12 北海道教育委員会へ